

第3回 北九州市文化芸術推進プラン検討会 会議録

1 開催日時

令和6年11月25日（月）14時～15時

2 開催場所

市庁舎5階 特別会議室B

3 議題

- (1) 第2回検討会における主な意見と対応方針等について
- (2) パブリックコメントの実施結果について
- (3) 北九州市文化芸術推進プラン最終案等に関する意見交換

4 出席者氏名

(1) 構成員

大島まな、久保山雅彦、調弘誓、外山典子、羽田野隆士、藤石美里、◎南博、
室園哲子 (◎：座長)

(2) 事務局

都市ブランド創造局長 井上 保之 他7名

5 議事概要

- (1) 第2回検討会における主な意見と対応方針、パブリックコメントの実施結果、プラン最終案等について事務局より説明し、質疑応答
- (2) 北九州市文化芸術推進プラン最終案等に関する意見交換

6 会議経過

(1) 開会・都市ブランド創造局長挨拶

(2) 事務局説明

事務局（資料1から資料4を用いて説明）

【資料1】 第2回検討会における主な意見と対応方針について

【資料2】 パブリックコメントの実施結果について

【資料3】 北九州市文化芸術推進プラン最終骨子案の説明

【資料4】 北九州市文化芸術推進プラン最終案の説明

(3) 事務局説明に対する質問・意見交換

南座長

事務局からの説明について、ご質問、ご意見等あればお願いしたいが、まずは私から1

点。本文だと22ページ、骨子では一番右下の、今回修正いただいた黄色い網かけの部分で、骨子だと「寿司や焼肉など新たに注目を集める食文化を活用した、北九州市ならではの文化観光の推進」について、これまでの検討会の意見を踏まえて修正いただいた。骨子では「新たに注目を集める食文化『を』活用した」だが、本文を見ると「これまでの取組に加えて」という文言もあるので、「新たに注目を集める食文化『も』活用した」という表現はどうだろうか。市として強い思いがあるということであれば、「を」でもよいが、「も」とした方が骨子としては少し広がりが出て本文とも整合するのではないか。

事務局

「これまでの取組に加えて」という、新たな食文化だけではなく、これまでの取組とあわせて包括的に食文化を活用していくということを伝えたいので、本文の意味合いに沿って、骨子を修正させていただく。

久保山構成員

プランの24ページに参考値が加わったが、何の調査なのか注釈を付け加えていただきたい。いろいろな写真も掲載されているが、それについても説明文がほしい。編集の段階で修正した方がよいのではないかと思う。

事務局

指標については、引用元を加えるようにしたい。写真についても、説明があるものとならないものがあるので、載せ方については検討させていただく。

室園構成員

プラン26ページからのグラフが白黒で少し見づらいので、カラーにすることはできないか。

事務局

カラーの方が分かりやすいので、広報用冊子の印刷に向けた段階で、色合いを調整して、分かりやすくすることを意識して対応させていただきたい。

藤石構成員

プラン18ページの「分かりやすく公開」の「公開」というのは、それがどのようなものを分かりやすく公開するということなのか、人目につきやすい場所に公開して分かりやすくするという意味なのか、どちらにも取れる。

事務局

どちらも大事だと考えていて、いくら分かりやすく書いて説明をしたとしても、皆さんに見ていただけないところだけだとあまり意味がないので、ものによって、こういった方

法が一番見ていただけるのか、例えばホームページであったり、実際の場所に記載をしたり、そういったところは配慮していきたいと考えている。

大島構成員

年配の方は、カタカナ語についていくのが大変でよく分からないとおっしゃる方が多い。そういう視点で見ると、プランの最終案の方は、本文の下に注釈を付けて細かく補足説明があり、カタカナ語も分かりやすくなっているが、骨子はカタカナ語が説明なしに入っているの、ぱっと見た感じでは分かりづらい。これだけの紙面に入れ込むので仕方ない面もあるが、補足的なものを入れられないか少し気を使っていたきたい。慣れた言葉はだんだん浸透していくと思うが、一般の方がご覧になっても分かるような表現になるよう配慮いただきたい。

事務局

骨子は紙幅の関係で、注釈を添えるのかというのは少し検討させていただきたい。今後、広報用の冊子に加えて、皆さんに手に取ってもらいやすい概要版も作る予定にしているので、そこではきちんと配慮していきたいと考えている。

南座長

特に、基本理念の部分は市民に幅広く共有されることが大切なので、最低限「ウェルビーイング」は、骨子の中で説明していただきたい。

南座長

その他にご意見がないようなので、北九州市文化芸術推進プランに関して本日ご指摘のあった部分については事務局で整理をお願いしたい。この後は、来年度からこのプランを北九州市が具体的に進めていくにあたって、行政に限らず、市民、民間の取組も含めて、北九州市の文化芸術関連の様々な取組をよりよいものにしていくために、何かアイデアやご意見、ご提言等をいただきたい。

大島構成員

今回は文化で「稼げるまち」というのも視点として大事なところに入ってきて、確かに財源が限られている中で、生み出しながらそれを次に回していくという循環は大事だと思う。

今は美術館や図書館といった社会教育施設も観光資源として考えようという動きがあるが、そういった視点も入ってきているとはいえ、子どもたちの教育は未来への投資で、経済的な効果はすぐには出てこない。未来への投資でそこを豊かにしておけば、10年後、20年後にその土壌が育つという部分で、ジレンマがある。

この問題を考えると、そういった循環をうまく回していくために、経済的な効果と、お金では計算できないが、そこに投資する部分は大事だという部分のバランスをしっかりと取

って、前回の検討会でも申し上げた格差の問題など、享受できる一定の層だけではない、文化振興という側面も両方しっかり考えていただきたい。また、子どもだけではなくて、生涯学習としても、デジタルでは享受できない年長者などの人たちが置いてきぼりにならないように、いろいろなところが連携しながらやらないといけないことだが、そのバランスを今後も考えていきながら取り組んでいただきたい。

久保山構成員

これまでの文化芸術の振興プランは芸術家などのプレイヤーとして参加する人が活動しやすい、あるいは興行を見に行くといった感覚だったのが、今回は「稼げるまち」という言葉があり、演じる人と、その周りの人、例えばイベントであればそれにお金を落としてくれる人、そういう波及効果の部分を中心に意識しておかないといけない。そうすると、私がある財団や様々な文化団体、イベントもそうだが、同じ時期に同じことを実施しても、効果が薄いというよりも、もったいないところが多分あると思う。市の施策はもちろん、私がある財団やその他の団体も含めて、同じ時に集中的にやったほうがよいものと、分散してやったほうがよいものどを誰がコントロールできるのかと考えると、多分市しかないと思う。もちろん、それぞれが実施していることなので、なかなかスケジュール調整は難しいだろうが、意見交換や情報収集などを行って整理ができる機関があれば、稼ぐという点でも望ましいのではないかな。

それから、パブリックコメントの3番の意見で、興行で稼ぐ施策と文化芸術を下支えする施策は違う視点で考えるべきという意見もあったが、あまりに「稼ぐ」というのが前提になると、市民が市から補助金を受けながら実施しているような行事もなくなってしまわないかという危惧が出てくる。そういう部分はきちんと支えるけれども、できる限り多くの人に来てもらえるように、文化芸術活動によって、にぎわいづくりなどにも波及させるということだと思う。今後、補助金がなくなるのではないかと不安に思っている方も恐らくたくさんいる。稼がないものは全部やめるというふうに心配されているところがあると思うので、注意いただきたい。

調構成員

市民の方からも様々な意見をいただいているので、具体的な計画を実施するにあたっては、ぜひ参考にさせていただきたい。

最終案の「まちに彩りを生み出す」と「多様な人を惹きつける」の柱は、目指す取組が分かりやすい。一番難しいのは「豊かな心と活力を育む」の柱だと思う。派手で目立つことは、「稼げるまち」という意味では必要かもしれないが、それが市民から乖離したところで行われるのは正しい姿ではない。「豊かな心と活力を育む」の部分は、子どもたちや市民の中に文化がきちんと息づいた上で、多様な人を惹きつけて彩りが出て、稼げるということになればよい。順番は、まずは稼いで、そこから染み出していくということかもしれないが、バランスよくやっていただきたい。特に行政がすることなので、市民が置いてきぼりにならないようお願いしたい。地元の放送局としても、微力ながら後押しできれ

ばと思う。

あとは、具体的な施策を実施するときは、この柱や番号を意識しながら、どこかに偏らないように進めていただきたい。

外山構成員

市民から、教育機関でのミュージアム・ツアーがなくなったことについて、たくさんご意見をいただいているのはとても心強い。先ほど大島構成員も発言されたように、家庭の教育格差があるので、全員が行けるわけではない。オンラインでいいじゃないかという意見もあったが、小学生がオンラインで絵を見るのではなくて、雰囲気を含めて楽しむということが一番の文化。せっかく「こどもまんなか」と市もうたっているのだから、そこを意識して今から進めていただきたい。

先日、福岡県の図画工作科の大会が小倉南区の高蔵小学校で行われ、NHKで取り上げていただいたら反響がすごかった。子どもたちも頑張っている、教員も頑張っているというところを、皆さんに広く浸透できたと思う。シビックプライドを高めていくということが、今から子どもたちを育てる意味でとても大事になる。せっかく美術館には、多くの素晴らしい収蔵品がある。先日の大コレクション展は、かなり人が集まって、SNSでも今回の展覧会がいいよというふうに発信されていたので、若者も結構来ていた。発信していただくということは大事で、県大会のときに他都市の先生からも、北九州には小倉城や素敵な美術館があると言われた。そういうところを私たちはシビックプライドとして活用して、広めていく。広めるためには、先ほども言ったように、こどもまんなかで、予算はないかもしれないが、ミュージアム・ツアーを復活させていただければありがたい。

イベントに関しては、勝山公園だけでなく、小倉駅の北側のあさの汐風公園の方でも実施してはどうかという声もある。思い立ったら行きやすい場所で、イベントを定着できたらよいのではないかという話を聞いて、なるほどなと思った。そして、そこに集まった人たちが、魚町を通して小倉城を見に来ると、経済効果もさらに生まれる。小倉城の周りだけで実施するよりも、そちらの方が経済効果が上がると思いませんかと言われて、良い案だと思う。

羽田野構成員

私どもとしては、「稼げるまち」というのは非常に分かりやすいキーワード。子育てしやすいまちなど、いろいろあるが、ここで稼げることによって働く場所が増える。それから、それが福利厚生にも繋がると考えたときに、今までの企業はSDGs意識していなかったが、これを意識しながら、売り上げを増やして利益を作っていくということになるかと思う。

今、何となくまちにワクワク感が出てきたような感じがする。どういうことかということ、例えば、以前まで文化芸術といえば、図書館や美術館に行くということだったが、今はまちを歩くことで文化や芸術に接する機会が増えたという感じを受けている。

今回こういうプランができるので、これをいかにして自然な形で広報活動できるかとい

うのが大事になる。昨日、門司でご当地井総選挙というイベントがあったが、これも今までからすると想像できないぐらいに、多くの人を惹きつけている。食べながらブラスバンドを聴いたりして、まちを歩くことで文化芸術に接する機会が非常に増えてきた。SDGsを意識しながら、家で音楽を聴いたり、テレビを見たりするだけではなく、まちへ出て、それがスポーツにも、文化、芸術にも関係するというまちに変わりつつあるので、市民参画型の芸術プランになっていけばよいと思う。

藤石構成員

今後、こういった方向を目指すのかや、北九州の活かしていきたい強みなどが分かりやすいものができたと感じている。

パブリックコメントを読んでみて、文化財に触れたり、知ったりできる場を求めている方が多いという印象を受けた。一方で、アンケートにもあったように、興味がない人やお金を使いたくないという人もいる。プランを進めるためには、皆が同じ方向を向く必要があると思うので、そういった人を巻き込むためにも、子どもなら教育の場面、大人向けなら駅など、自然と文化に触れられる場面や場所などを準備していけたら理想的だと思う。また、案にも出てきたように、ポップカルチャーなど手の出しやすいところから、市民がより文化に触れて行くようになればよい。

それから、観光となると、お金や経済の面に目を向けがちだが、文化に親しみを持つということを忘れないでいただきたい。オンラインも流行りがちだが、経験を自分の身でするというのは、自分が生きていく上で、何よりも価値があり、人生の財産になると思うので、そういった場面を今後も作っていただけるとありがたい。

私も、こういったプランがあるということを知って、文化や芸術にさらに興味を持ちたいと思ったので、今後5年かけて、様々な媒体で多くの市民の方にも広報して、プランを進めていただきたい。

南座長

今後、このプランを推進するにあたっては、プランにも記載があるように、多様な地域の主体との連携協働、特に文化芸術に関しては地域内に限らず、地域外の団体との連携協働ということも発生すると思う。そういった中で、特に高校や大学、短大、専門学校といった教育機関との連携というのは、先ほどもご発言があったように、シビックプライドの醸成や若者の地域への定着という部分でも文化芸術が大きく関わってくる部分なので、大学などとの連携というところもしっかり取り組んでいただきたい。

今後、ハード面、管理運営をどうしていくのかといった話も、状況によっては議論になるかもしれない。そういった場面においては、市民から広く関心のある事項なので、市民に説明を丁寧にしつつ、理解を得ながら進めていっていただきたい。

一方で、先ほど他の構成員からもご発言があったが、文化芸術の分野というのは、その領域に関心がある人にとっては関心があるけれども、ない人にとってはないという、意見が非常に分かれやすいものでもあるという難しさもある。普遍的な意義というものの見解

がいろいろ分かれたりする部分で非常に難しさはあるが、引き続き丁寧な形で進めていきたい。

室園構成員

文化はお金がかかると思う。文化に関わっている人達は、書道にしても何にしても、いろいろお金をかけている。尖った部分がなくて、無難に収まったプランだと骨子を見て思う。ハード面ができれば雇用も生まれ、稼げる方に向かうのではないかと思う。それから、北九州はメディアを使ってアピールするのも大事だが、発信の仕方を考えたら、もう少し知れ渡るのではないかと思う。

久保山構成員

最後にもう1点、障害のある方のアート活動は見落とされがちなので、だからこそこの計画にも入れてもらったが、実行段階では局間の意思疎通をしていただきたい。今回、都市ブランド創造局になり観光・文化・スポーツの部分についてはすぐ意思疎通ができると思うが、障害者の関係だと局が異なるので、実施段階で局間の調整をお願いしたい。

南座長

本日の第3回の検討会においても、各構成員の皆様方から非常に重要なお指摘やご意見をいただいたので、今後は事務局を中心に成案を取りまとめていただきたい。最終的な調整に関しては、事務局が修正案を作成し、その取りまとめに関しては、座長にご一任いただくということよろしいか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、そのように取りまとめを進めさせていただく。事務局より今後のスケジュールなどの連絡をお願いしたい。

事務局

今後の予定としては、12月に開催を予定している議会の常任委員会において、パブリックコメントの結果とともにプランの最終案を報告する。その後、プランを成案として取りまとめ、令和7年4月1日の計画期間開始に向けて、市民の皆様に分かりやすい形で冊子と概要版を作成し、でき次第、皆様にもご案内させていただく。

検討会としては今回が最終回だが、ご多忙の中、多くの貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。基本理念と3つの柱、特に柱のバランスといったところにも留意しながら、プランをいかに浸透させるか、共有していけるかや具体的なアクションというところで、これまでいただいたご意見を反映させていきたい。

南座長

それでは以上で、第3回北九州市文化芸術推進プラン検討会を閉会する。

7 問い合わせ先

都市ブランド創造局 総務文化部 文化企画課 文化企画係
(電話番号：093-582-2391)